

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10月号 (NO66)

2015年10月10日 (土) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】、荒み始めている農的生活の見直しを！

○「仲秋の名月」(旧暦の8月15日)の27日は、関東地方は夜も曇りがちとなるとの予報だったが雲間から名月が見られた。翌28日は全国的に夜も晴れ間が広がり、今年最大の満月「スーパームーン」が見られた。ススキも団子も用意できなかったが、名月を愛でることが出来た。日没間もない東の空の月には妖艶なものを感じた。名月にふさわしい夜空となった。寒露は8日であるが、露が冷たく感じられてくるころのこと云う。空気が澄み、夜空にさえざえと月が明るむ季節とある。異常に発達した低気圧や台風のはざまだけが、寒露の時季に近い天気恵まれた。29日は良い天気であったが、山の天気は台風並みの強風であるが、弱まる？の予報で、農仲間の例会を兼ねた三斗小屋温泉への山行に出かけた。森林限界を超えた所では強風に難儀した。9日には、超大型の台風23号が北海道で大暴れしている。相変わらずの異常気象であるが、私の好きな木犀(モクセイ)の香が漂ってきた。毎年、明確に季節を伝えてくれる。良寛の萩とは違うが、わけも判らず嬉しくなる。寒露の時季を楽しみたいものである。

○暑さ寒さも彼岸までというが、農作業も今の時季になると楽になる。草の繁茂力に負けた畑の除草を続けやっと一巡した。草によるダメージは大きく野菜にとっては手遅れで徒労に近い。次への準備や片付けとしては意味があるが、野菜の姿に少しだけ心が痛む。ネギは7割復活、楽しみだった食用菊のモッテノホカは、収穫の期待は薄い。落花生はほぼ全滅で、里芋の生育は今一つである。黒豆、小豆の収量は？だがほぼ順調に生育している。

○手遅れの除草の痕跡が色濃く残る畑にトマトの赤、大きく生育した冬瓜が目立つ。トマト、モロヘイヤ、ネギ、ピーマン、それに柿など少しずつではあるが収穫して、8日の夜に柏に戻った。マイクロトマトは美味だと喜ばれた。まだ沢山赤い実を着けている。鑑賞しているだけでは申し訳ない。自然の恵みへの感謝と畑に反省の意を込めて、また収穫したい。

○9日には川崎でのOB会へ出かけた。川崎駅の西口は一変していた。今更ながらのことであるが、都市部と田舎の差を見せつけられた感じがした。帰りは、品川駅で乗り換えした



＜姥ヶ平からの紅葉＞茶臼岳の噴煙と紅葉の眺めは最高。強風の中を歩く。30日撮影

のだが、東京も上野も乗り換えず帰られた。利便の変革も続いている。田舎の雰囲気を残していた品川も大変身したところである。富と文化の都市部への一極集中は止まらない。若者が都会に憧れるのも理解できる。だが、国土の7・8割は森林の日本である。先日参加した藻谷啓介の里山資本主義フォーラムではないが、里山文化の振興の大事さを改めて感じた。そして、荒み始めている農的生活の見直しを、雑踏を歩きながら考えていた。

### 【楽農】除草を続けやっとな掃?!

<畑A> ; ほうれん草の播種。アサツキに植え込み、トマト、菊、モロヘイヤ、栗の収穫、何れも少量。全般除草。

<ハウス> ; 周辺除草。

<畑B> ; 黒豆、小豆、金時の除草  
草払い機で全般除草

\*畑Bの約半分が草地状態になっており草払機で伐採?する。

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ;

リボン館講座 (12日) たまり場茶・茶・茶総会 (15日)、第2回里山資本主義フォーラム・筑波大於 (26日) 詩吟筑西大会 (27日) 那須三斗小屋温泉 (29-30日) 共生の会 (1日)、OB会 (9日) 参加など。



<里山資本主義フォーラム>藻谷啓介氏の講演の後に常陸太田の鯨ヶ丘商店会の事例でワークショップを。筑波大で。26日日撮影

### 【つぶやき=Tweet】歴史を学ぶは好んでしたい!

○ “ひとつの時代が終わったと言われて久しい。だが、その先にいかなる時代を展望するのか、私たちはその輪郭すら描きえていない。20世紀から持ち越した課題の多くは、いまだ解決の緒を見つけることのできないままであり、21世紀が新たに招きよせた問題も少なくない。グローバル資本主義の浸透、憎悪の連鎖、暴力の応酬—世界は混沌として深い不安の只中にある。現代社会においては変化が常態となり、早さと新しさに絶対的な価値が与えられた。消費社会の深化と情報技術の革命は、種々の境界を無くし、人々の生活やコミュニケーションの様式を根底から変容させてきた。ライフスタイルは多様化し、一面では個人の生き方をそれぞれが選びとる時代が始まっている。同時に、新たな格差が生まれ、様々な次元での亀裂や分断が深まっている。社会や歴史に対する意識が揺らぎ、普遍的な理念に対する根本的な懐疑や、現実を変えることへの無力感がひそかに根を張りつつある。そして生きることに誰もが困難を覚える時代が到来している。しかし、日常生活のそれぞれの場で、自由と民主主義を獲得し実践することを通じて、私たち自身がそうし

た閉塞を乗り越え、希望の時代の幕明けを告げてゆくことは不可能ではあるまい。そのために、いま求められていること——それは、個と個の間で開かれた対話を積み重ねながら、人間らしく生きるための条件について一人ひとりが粘り強く**思考**することではないか。歴史とは何か、よく生きるとはいかなることか、世界そして人間はどこへ向かうべきなのか——こうした根源的な問いとの格闘が、、”は「岩波新書新赤版 1000 点に際して」からの引用である。今の社会状況を、あまりにも簡潔・的確に指摘されているので、ほぼ全文引用してしまった。この文章の存在を知ったのは本からではない。里山資本主義フォーラムのワークショップの資料からである。里山資本主義フォーラムの問題意識が窺える。

○20 世紀は戦争の世紀で、21 世紀は共生の世紀だと勝手に思ってきたが、20 世紀からの持ち越しは多い。今の社会状況は、この引用文の通りであると思う。先月号で触れたエジソンは**思考**することが大事であるといっている。ここでも**思考**することだと云っている。“40 にして惑わず”を遥かに超えてスタートラインに立たされたような気がする。最近では70 歳や80 歳の手習いのニュースもある。未熟さには慣れている。これからいろいろ考えて始める（**思考**する）のも悪くないような気がして来る。OB 会で川崎へ行った折、東芝未来科学館へ寄り、エジソン関連の展示を見てきたが、先人に学ぶことは大事であると思う。歴史に学ぶことは多い。課題に合わせ歴史を紐解くのもいいと思う。

○刑場に向かう石田三成に生水を勧めたら腹に悪いからと断ったとの逸話が残っている。あやかる訳ではないが、何かを始めるのに時期は問わないでいいと思う。石田三成は悪い人間として描かれている場合が多いが、私は違うように思う。少し前になるがテレビで“前田慶次のかぶき者”で三成の子が出てきたが徳川時代を経てゆがめられているような気がする。

○山の古い友人から先月号へのコメントとして“<略>自分に関わる損得だけを考えて生きるというのも一つの考えかもしれません。そこから意外な答えが見つかるかもしれませんね。<略>”とメールをいただいた。自分の置かれたポジションから考えるのが一番かもしれない。PC が壊れ返信もせず失礼したままになっている。石田三成の生き方が気になる。歴史には敗者に正義があること多いと思うからである。歴史を学ぶは好んでしたいと思っている。またも思い話にってしまった、、、。

【後記】寒露の時は特にいい。雑踏を離れ、笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<仲秋の名月>妖艶な月光に思わずカメラを、カメラの性能か？残念。27日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄  
住所；笠間市本戸4201-10  
携帯電話；090-9333-4135  
メール；torao-k@nifty.com

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>